

:: 空港旅具

空港から安全・安心な社会を守る



東京税関成田税関支署統括監視官
(旅具通関部門担当) 付

大須賀 みどり

平成29年一般職(大卒程度) 行政

私は東京税関成田税関支署旅具通関部門に所属し、成田空港から出入国する旅客の手荷物に対する検査を行っています。海外旅行の経験がある方は、日本に入国する際に税関に携帯品申告書を提出したことが記憶にある方もいるのではないのでしょうか。普段、国際貿易に関わりがない方であっても、自分の手荷物について申告を行う場として最も税関を身近に感じることができる部門が旅具通関部門です。当部門で働く職員は税関の顔として、使命感をもって検査業務に従事しています。

税関検査では、法律で定められた輸入してはならないものなどの取締りや関税等の徴収を行います。輸入してはならないものとは、覚醒剤、大麻、麻薬及び向精神薬といった不正薬物から偽ブランド品、銃器・爆発物といったテロ関連物資等、多岐にわたります。旅具通関でこのような物品の取締りや徴税を行う際には、旅客の協力を得て、質問をしながら検査を行います。検査官として対応するには幅広い知識が必要となり、責任も大きい業務です。

税関における令和2年の不正薬物全体の押収量は5年連続で1トンを超え、2トンに迫る過去3番目を記録しました。国際貿易の振興によって私たちの生活が豊かになる反面、不正薬物等の密輸が後を絶たないのも事実です。

旅具通関は、こうした密輸の場面に関わることも多く、緊張感のある職場です。しかし、チームとして班員と協力しながら取締りの成果を得た

ときや、個人として摘発をした際にはやりがい大きく実感できます。また、班員の理解もあり、語学研修等に参加しやすく、自分のやりたいことに挑戦できる職場です。

旅具通関に興味をもっていただき、安全安心な社会のために働くことを目指していただけたら、嬉しく思います。



● 電子申告ゲート



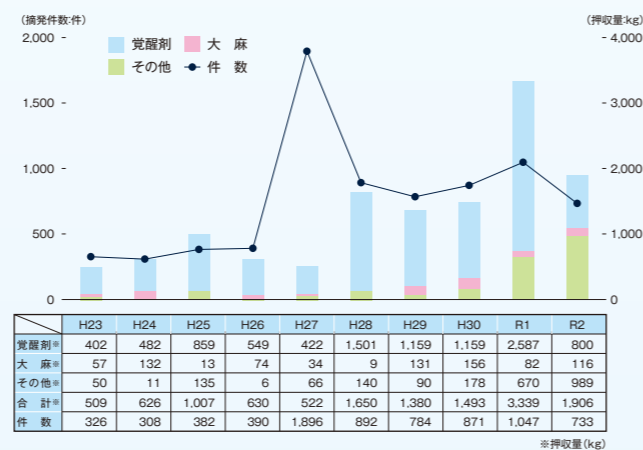
税関では7空港(成田、羽田、関西、中部、福岡、新千歳、那覇)で電子申告ゲートを運用しています。

空港の税関検査場に設置された電子申告端末にてパスポート及びアプリで作成したQRをかざすことにより、これまで紙で提出していた携帯品申告書の電子的提出が可能となります。

また、電子申告端末での手続き時に顔認証用の画像を撮影し、ゲート通過時に同画像での本人確認を行っていますので、手続きが完了したらそのままスムーズにゲートを通過することができます。

更に、人と人との接触を軽減することから、新型コロナウイルス対策としても非常に有効です。

● 不正薬物の摘発件数と押収量の推移



(注) その他とは、あへん、麻薬(ヘロイン、コカイン、MDMA等)、向精神薬及び指定薬物をいう。令和2年の数値は速報値。令和元年は、平成31年1月から令和元年12月を示す。

:: 海港取締

日本の水際を守る



横浜税関監視部統括監視官
(取締部門担当) 付監視官

小坪 佑輔

平成23年II種 行政

私は横浜税関監視部取締部門に所属し、不正薬物やテロ関連物資等の密輸を水際で阻止するため、世界各国から横浜港に入港する外国貿易船等に対する取締りに従事しています。覚醒剤や大麻などの不正薬物の脅威から日本を守るためには、税関による水際の摘発が不可欠です。これまで税関では、一度に約1トンの覚醒剤を押収した事例もあることから、不正薬物を水際で阻止することがどれほど重要なことかが分かると思います。加えて、国内でオリンピックや国際会議等が実施される際には、テロの脅威から日本を守るための使命も担っており、税関職員が活躍するフィールドは日々広がっています。

取締部門では横浜港での取締りを行うだけでなく、全国の税関の仲間と情報交換を密にしながら、チームプレーで摘発を目指しています。時には海上保安庁などの関係機関と合同船内検査等を実施することもあります。瞬時的確な判断を下さなければならないときがあるなど、困難なことも多々ありますが、日本の水際を

守ることで「安全・安心な社会を実現する」という税関の使命を達成するための仕事は、とてもやりがいを感じられます。

外国人と接する仕事も多いことから、税関は語学に関する研修が充実しており、語学スキルを磨くこともできます。情報収集のため、外国人の船長に質問検査をすることもあるため、語学力を鍛えていこうとする人材が求められています。

また、新型コロナウイルスの世界的な流行の影響で、税関の取締り業務においても改革が進められています。そのため、めまぐるしい変化に柔軟に対応することや、新しい発想がこれまで以上に求められています。なお、取締部門では新型コロナウイルス対策は徹底して行っており、安心して働くことができる環境となっています。

日々変化する世の中に応じて、税関の海港取締も進化していく。そんな刺激的な職場で一緒に仕事ができる日を楽しみにしています!



:: 審理

「人」を相手にする仕事



門司税関調査部統括審理官
(情報第2部門担当) 付

谷川 瑞稀

平成28年一般職(高卒者) 事務

皆さん、税関に張込みや捜索、取調べをする部門があることをご存じですか。私が所属する調査部情報第2部門を含む「審理」では、多方面から密輸等の情報を集め、張込みや尾行、捜索や差押えを行い、水際の密輸阻止や事件の全容解明、処分決定等を行っています。イメージしやすいように言えば、テレビドラマで見る刑事のように「捜査」を行う部門で、実際に警察や海上保安庁、麻薬取締部と一緒に仕事をすることも多くあります。

税関ではそれを「調査」と呼びます。例えば、入国旅客や国際郵便物、貿易船舶内等から職員が違法薬物等を発見した場合、その多くが審理に引き継がれ、後の調査を担当するのです。嫌疑者の取調べ、薬物等の配送先調査、違法薬物を偽物にすり替えて行う、いわゆる泳がせ捜査、裁判官から令状を取得しての捜索差押、携帯電話解析、関係者の割り出しと、調査手法は様々で、裁判までの証拠集めと事件の全容解明や処分決定、新たな密輸阻止に全力を注ぎます。

また、審理では些細な情報や少しの違和感を

見逃すことなく、数か月に亘り全国各地を飛び回り、粘り強く調査することで大きな成果を挙げています。その一例として、令和元年熊本県天草市の漁港で覚醒剤約600キログラムの密輸を摘発した事件等が挙げられます。

密輸犯の年齢や国籍は様々で、背後に大きな組織が潜っていたり、密輸犯も命がけだったり、相手次第で状況は常に変化し、一つの判断ミスが事件を台無しにしてしまう、時にはそんな緊張感のある場面にも直面しますが、その分審理の仕事に対する熱量とやりがいを全身で感じ、日々勉強することのできる職場だと思います。

既にご存じだった方も、今初めて知った方も、そんな審理で働いてみませんか。

